

平成 23 年 10 月 3 日

## F I G 第 7 部会出席報告

平成 23 年 9 月 26 日より 9 月 30 日まで、オーストリア共和国インスブルック市郊外の、国立建設研修所において国際測量者連盟第 7 部会年次総会が開催され、J A C I C から海津が出席したので報告する。

### 1. 年次総会

総会では、26 日-29 日にかけて、約 50 名が参加して F I G としての活動、WG の報告、特に興味ある状況、災害における地籍の取り扱い、各国のレポート、建物の取り扱い、I S O 1 9 1 5 2 (L A D M) の審議状況報告、WG の活動方針の確認と提案、2014 年以後の地籍に関するビジョン今後の関連する国際会議の予定など 37 件の発表と討議が行われ、30 日は地元測量学会との共催で、国際シンポジウム「地籍 2. 0」として約 100 名が参加し、10 件の発表と討論が行われた。海津はセッション 6「災害対応と地籍」において東日本震災とそれにかかる土地管理上の問題について発表した。このセッションでは、ニュージーランドからウェリントンの地震で市内に断層があらわれ、液状化も生じたことで、所有境界の扱いに苦慮していること、ハンガリーからは、鉱山の鉱滓プールの決壊に伴い汚染被害が生じた際、環境保全、避難、保障などで地籍データが数値的に速やかに利用できたことで対応が巧く行った事等も発表され、いずれの後援者も、休み時間や食事に際していろいろな国の参加者から質問が寄せられ、注目された。

### 2. 災害対応WG

災害対応WGの計画においては、日本、ニュージーランド、ハンガリーのほか、アイスランド、マレーシアなどの経験についてケーススタディ用の資料を作ることが好ましいとの意見が出て、F A O と協力して地震のみならず、風水害や地盤災害などについても事例を写真を交えて簡単に書いた資料を作り、途上国の関係者の訓練にも役だてることとなった。この際、途上国での地図整備が必ずしも良くないとの意見があり、海津より同じ国連で、地球地図プロジェクト（国土交通省及び地理院が深くかかわっている）があるので活用すべきであると発言し、フランスからの参加者等から支持された。

### 3. 注目すべき傾向

今回の会議で特に注目すべきは、現状ではまだ精度に難があるものの、測位機能と通信機能を有する i- phone や i- pad に代表される道具が発達し、オープンストリートマップのようなものと組み合わされると、従来の地籍調査よりはるかに速く、よりリアルタイムの情報が非正規的にあふれてくる可能性があることに多くの関係者が注目し、その可能性と、所有権の保護上の問題点が討論されたことである。「地籍 2. 0」は、まさにこれに特化したシンポジウムで、議論が百出して大変興味深かった。もうひとつ注目されたのは地籍の 3 次元化で、韓国、マレーシア、

オランダなどから建物の 3 次元記述について報告されたほか、オランダからはトンネルやマイクロ波アンテナを例に取り、地中あるいは空中に権利が設定されるのが適当である場合の管理境界、法的権利の境界をどのように設定し、地籍調査や登記で扱うのかとの問題提起があり、このため、今回の現場見学はカフスタイン市にある地方地籍局に加えて、トランスヨーロッパネットワーク高速鉄道トンネル、インスブルック工区の工事現場を見学し、実際に緊急脱出口、が畑の中にあることや、トンネル内部を歩いてみることで、3次元地籍について考えるという試みがなされた。

#### 4. 紀要

発表された論文のうち、締め切りまでに提出があった論文（海津の報告を含む）についてはオーストリア測量学会誌の特別号としてプロシーディングにまとめられ、最終日に配布された。

#### 会議風景



現地実行委員長シェンナハ博士の挨拶



国際シンポジウムにおける世銀の発表



地方地籍局にて



研修所から見えるチロルの山並み